

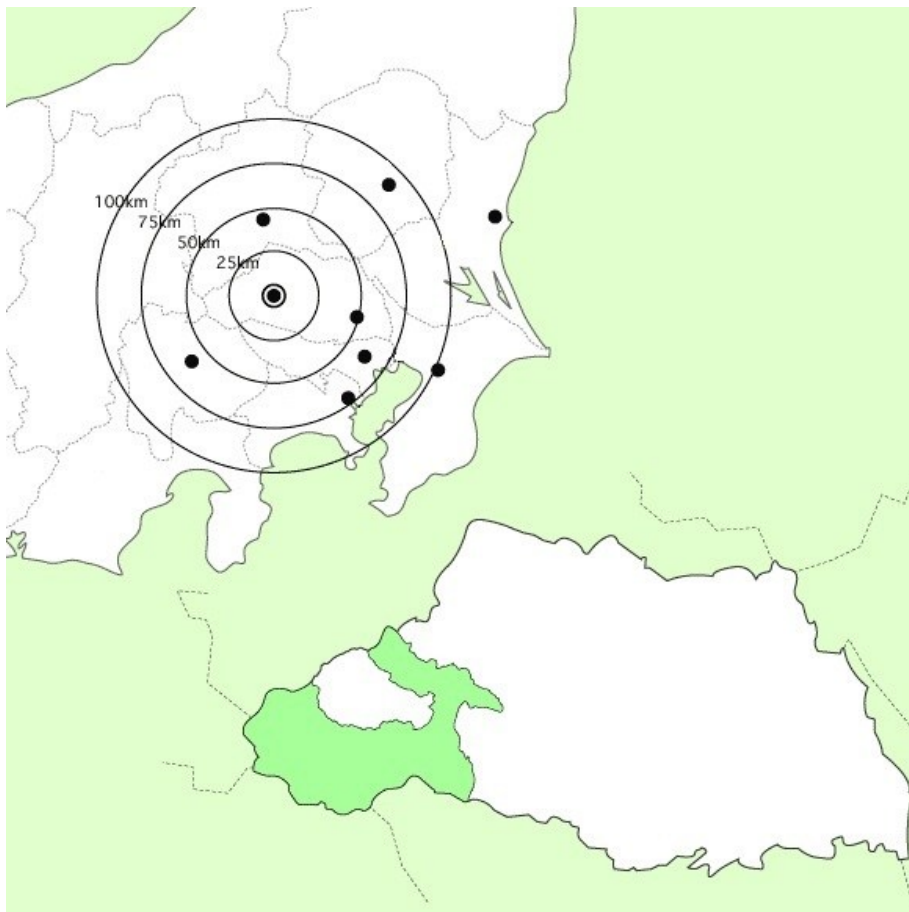
「地球資源の保全と活用に向けた歴史まちづくりや景観行政に向けたワーキンググループ」発表資料

秩父市街地における 国登録有形文化財群を活用した 歴史まちづくり

埼玉県秩父市教育委員会文化財保護課

伊藤 暁

国登録有形文化財「旧埼玉県繊維工業試験場」(現・ちちぶ銘仙館)



1, 秩父市の概要

場所: 埼玉県の西端

1都3県(東京都・山梨県・長野県・群馬県)に接する。

面積: 577.83km²(埼玉県の約1/7の面積)

⇒市域の87%は森林

人口: 54,848人(R7.8.1現在)

秩父市の特徴:

○荒川上流域に位置

・河成段丘の地質と水運業の発達

○石灰岩質の山「武甲山」

・近代セメント産業の発展と伏流水

○関東と甲信をつなぐ交通の要衝

・「秩父往還」(中山道の裏街道)

・秩父札所観音霊場

○近世以降の主産業 生糸と織物

・絹市と「秩父銘仙」

2, 秩父市の歴史(概略)

【古代】・国内初の自然銅の検出(708年・年号を「和銅」に改元、「和同開珎」鑄造へ)

・地域武士団「秩父氏」の存在 ⇒子孫が全国各地へ(畠山・豊島・江戸など)

【鎌倉～江戸】

・戦国時代における相模北条氏と甲斐武田氏による覇権争い

・養蚕業(生糸産業)の発展

⇒秩父神社周辺で開催された「絹大市」と秩父祭笠鉾・屋台の登場

⇒近現代において、市街地が発展した一因となる。

・平賀源内による大滝地域の鉱山開発

【明治】・欧米における絹価格の暴落と「秩父事件」

⇒この時期から、織物業(「秩父銘仙」)も盛んになる。

⇒市街地がさらに発展した一因となる。

【大正】・震災特需等を背景にセメント産業が起り、主産業の1つとなっていく。

3, 秩父市の歴史的資源

○和銅遺跡：日本初の自然銅発見の地とされる。

江戸時代にも商業的な銅採掘・加工が行われており、史跡が残る。

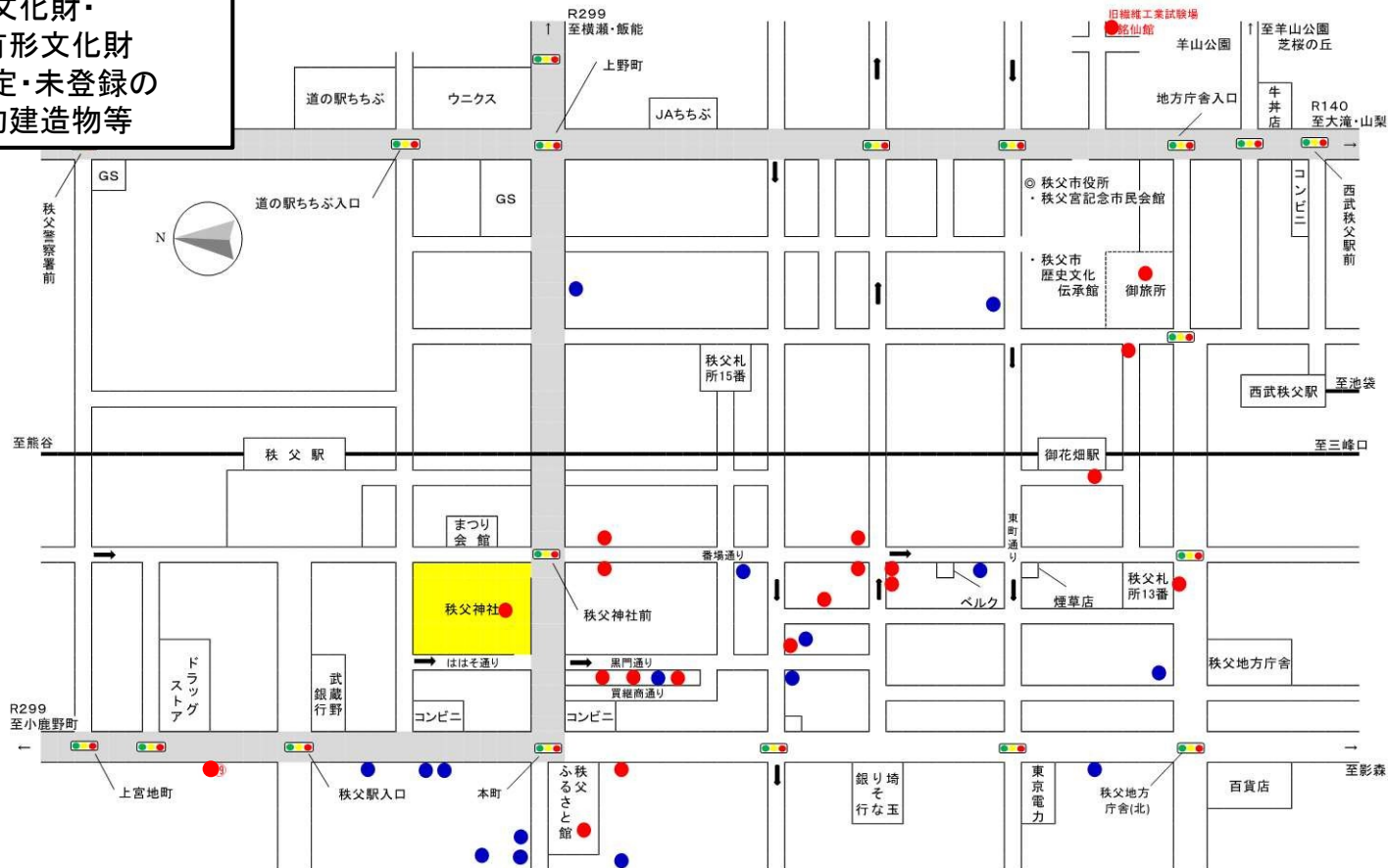
○秩父札所：西国・坂東とともに「札所百観音霊場」の1つ。秩父地域に34か所。
12年に一度、御本尊の「午年総開帳」(令和8年が該当)。

○養蚕・織物関係：

江戸時代に秩父神社周辺で絹取引の市が開かれていた流れを受け、時代とともに現在の市街地である場所が商業的に発展を遂げた。絹や織物の取引が行われた建物や、それに伴う商工業の建造物など数多く残っており、その一部が国登録有形文化財となっている。

○石灰産業：明治時代以前から生成した痕跡(窯跡)が残る。⇒ 蚕の病気防止。
大正時代にセメント産業が起り、秩父の近現代期の一大産業になる。
セメント工場や鉄道引込線など、現役の資源が今なお残る。

- = 指定文化財・登録有形文化財
● = 未指定・未登録の歴史的建造物等



○登録有形文化財（一例）



「旧柿原商店」

柿原商店は、大正時代より当地で繁栄をきわめた織物問屋であり、一時期は「西武商工銀行」としての役割も果たした。昭和初期の商家建築の形式を伝える建物で、市街地の角地でランドマーク的な存在である。現在は「秩父ふるさと館」として、地元町により商業施設として活用されている。



「小池煙草店」

装飾に富んだ昭和初期の店舗併用住宅で、秩父神社参道沿いの角地に建つ木造2階建の建物。現在は隣接建物とともに内装がリノベーションされ、「NIPPONIA秩父門前町」の1棟として、宿泊施設及びカフェとして活用されている。

○未登録の歴史的建造物(一例)



織物工房・工場の建物群



5. 今の市の取り組みや課題

<過去の取組>

「秩父市文化財・歴史的遺産保存活用 基本計画」(H13作成)

○目的

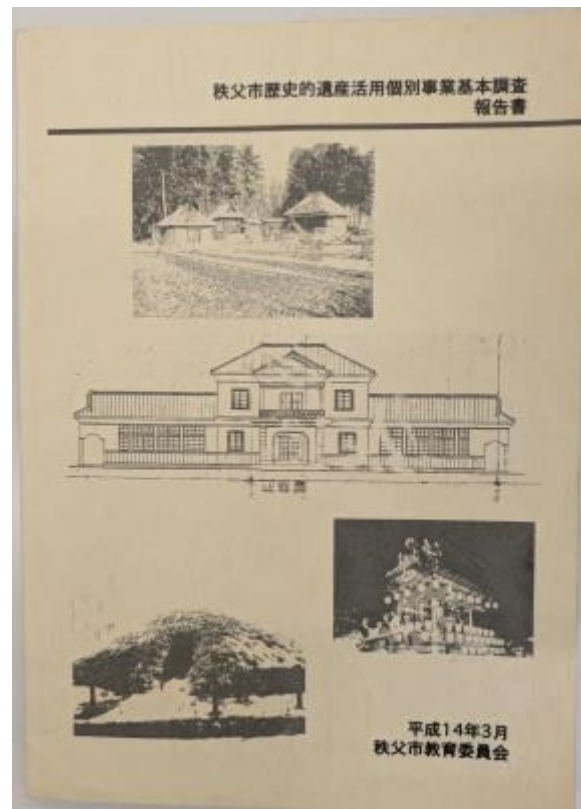
秩父市の中心市街地に残る近現代の
建造物群の保存・活用を軸とした
中心市街地の活性化

○手段

国登録有形文化財制度の積極的活用

○成果

当該地域を中心に、平成13年度から数年で28か所を登録。



⇒ しかし結果的に、この計画は途中で頓挫。

【主要要因】

- 建物所有者の理解と高齢化による後継者の不在
- 県・市関係機関の施策とのバランスと相違 他

⇔ただ、現在は建造物所有者・市関係部局ともに
考え方に変化があり、建造物群の保存・活用の気運が
非常に高まってきている。

(例)所有者…現建造物への価値の見出し・耐震補強
市…まちづくり構想・休眠していた建物の利活用

6. 今後の歴史まちづくりに向けて

○現状での中心市街地の位置づけ

- ・中心市街地活性化基本区域(H13)
- ・都市機能誘導区域(R3)

⇒市街地を中心としたまちづくり

都市機能に加えて、地域外や解体した状態の指定・登録文化財の移築・再建の検討も視野。

⇒都市機能の集約だけでなく、観光振興の拠点としての機能を強化して「歴史まちづくり」を行い、地域活性化を図る。

⇒市街地を中心とした登録有形文化財群は、その中核となり得る存在。

ありがとうございました。